

DOUBLE
ANNUAL
2024

2024.2.24^{SAT}-3.3^{SUN}
10:00-18:00

※観覧締切時間は17:30

国立新美術館 3階 展示室3A

会期中の休館日:2月27日火 | 入場無料

ディレクター
金澤韻
服部浩之
監修
片岡真実

瓢箪から駒
ひょうたん
ちぐはぐさの創造性



出展作家
ARTISTS

張京京
趙彤陽
住谷文兵
川口源太
山下龍二
(tachiwo.design.lab)
横田勇吾
森田翔稀
杜鞠
木村晃子
菊地那奈

ZHANG JINGJING
ZHAO TONGYANG
SUMITANI Bumpai
KAWAGUCHI Genta
YAMASHITA Ryuji
(tachiwo.design.lab)
YOKOTA Yugo
MORITA Shoki
Tomari
KIMURA Akiko
KIKUCHI Nana

協賛
協力
京都芸術大学
東北芸術工科大学

アート
メディエーター
ART MADIATOR

田英凡
黄宇曦
荒木桃香
島田芽依
山口楓生
清原緋落
松本妃加
山根唯

TIAN YINGFAN
HUANG YUXI
ARAKI Momoka
SHIMADA Mei
YAMAGUCHI Fu
KIYOHARA Hiroyuki
MATSUMOTO Himeka
YAMANE Yui

協賛:
株式会社きんでん
セコム株式会社
株式会社竹中工務店
富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
株式会社毎日映像音響システム



KYOTO UNIVERSITY OF THE ARTS
学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学



東北芸術工科大学

きんでん

SECOM

TAKENAKA

FUJIFILM

富士フイルム ビジネスソリューションジャパン株式会社

MVA 株式会社 毎日映像音響システム

DOUBLE ANNUAL 2024

2024年
2月24日^土 - 3月3日^日
10:00 - 18:00
※観覧締切時間は17:30

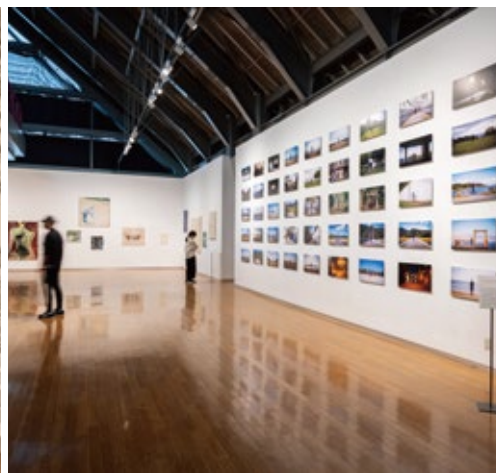
会期中の休館日:2月27日^火
入場無料

国立新美術館
3階 展示室3A

瓢箪から駒
ちぐはぐさの創造性



DOUBLE ANNUAL PREVIEW展 京都会場
2023 | ギャラリー・オーブ | 撮影:顧劍亭



DOUBLE ANNUAL PREVIEW展 山形会場
2023 | THE TOP | 撮影:草朔裕

主催:京都芸術大学 協力:東北芸術工科大学

DOUBLE ANNUAL 2024 A Horse from a Gourd: The Creativity of Incongruity

Double Annual は京都芸術大学と東北芸術工科大学の学内選抜展です。Double Annual では毎回テーマを設定し、両校の学生から作品プランを募集します。今回の募集テーマは「問い合わせ中」でした。コロナ禍を経て世界全体が次のフェーズを模索する中で、私たちの心理状態やそこに起こるアクションを念頭に置いたワードです。このキーワードに回答するかたちで、問いかけそのものに重きを置き、確たる答えを求めないオープンな姿勢の作品プランが多く寄せられました。

1次の書類選考、2次の面接を突破して最終的に選ばれた10人は、応募時のプランをディレクター陣と対話しながら発展させていきます。その中で、興味深いことに「容れ物」のイメージが浮かんできました。意識と体、自分自身と社会、空いている土地、などなど。中身と容れ物の用途やサイズは合っておらず、そこには常に大小の疑問が生じます。

時代が動く時、既存の枠組みや、慣れ親しんだ感覚などに違和を感じ始め、それはやがて無視することのできない大きなギャップになるということは、ありえることでしょう。その初期微動を、アーティストたちは敏感に感じ取っていると云えます。またいっぽうで、今回の参加作家たちは、それら中身と容れ物が合っていない「ちぐはぐ」な状況を、必ずしもネガティブに捉えてはいません。ちぐはぐさ、つまり距離やギャップを無理に埋めようとはしなくとも、遠いどこかや誰かに何らかの呼びかけをしているようにも見えます。両義的な私たち自身を逆照射したり、あるいはその状況からクリエイティブで新しいヴィジョンを導き出そうとします。

問いと答えはいつもダイレクトに繋がっているわけではないはず。時には、「瓢箪から駒」のように、思ってもみなかった面白い何かが飛び出してくることもあるのではないのでしょうか。

DOUBLE ANNUAL

「DOUBLE ANNUAL」は京都芸術大学ならびに東北芸術工科大学の全学部生と院生を対象とした学生選抜展です。

京都芸術大学は2017年度より、第一線で活躍するキュレーターを招聘し、キュレーターの提示したテーマに回答する形で、学生を募集・選抜し、キュレーターから制作指導を受けながら展覧会をつくり上げる実践的な芸術教育プログラムに挑戦してきました。昨年より姉妹校である東北芸術工科大学からも学生選抜を行うプロジェクトへと発展させ、京都と山形という二つの異なる地点から、芸術教育のあり方を問い直し「アートになにができるのか」問いかけています。

国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
TEL:03 6812 9921 (会期中のみ)

東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分
※美術館には駐車場はございません。

お問い合わせ先
京都芸術大学 教学事務室
075-791-9122(代)
d-annual@office.kyoto-art.ac.jp

DOUBLE ANNUAL
ランディング
ページ



<https://www.kyoto-art.ac.jp/doubleannual2024/>

DIRECTORS



ディレクター:京都芸術大学 担当
金澤韻

京都芸術大学客員教授、現代美術キュレーター。公立美術館勤務後、2013年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。メディアアート、漫画、地域とアート、障害とアートなど既存の美術の枠を超える領域を扱う。株式会社コダマシーン共同代表。現代美術オンラインイベントJP共同主宰。



ディレクター:東北芸術工科大学 担当
服部浩之

キュレーター。東北芸術工科大学客員教授、東京芸術大学大学院映像研究科准教授。2020年度・2021年度KUA ANNUALディレクター。アジア各地で新しく生まれる表現活動を調査研究するなかで、異なる領域の応答関係に関心をもち、様々な表現者との協働を軸にしたプロジェクトを展開する。近年の企画に、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(2019年)がある。



監修
片岡真実

森美術館館長、国立アトリーサーチセンター長、京都芸術大学大学院客員教授。2017-2019年度KUA ANNUALディレクター。芸術監督として、第9回光州ビエンナーレ(2012、共同監督)、第21回シドニー・ビエンナーレ(2018)、国際芸術祭「あいち2022」なども兼務。

写真:伊藤彰紀

アート・メディエーターとは

美術展をつくる一連のプロセスの一部を担うスタッフ。作家と深く関わり、展覧会ができるまでの活動を記録し、テキストを書き、広く世界に届けていくこと等を行います。様々な専門を持つ作家たちや世界的に活躍するキュレーターに寄り添いながら、展覧会と一緒に作り上げていきます。

